

学校法人湘南ふれあい学園 2025年度事業計画

目 次

I	学校法人の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	学校法人湘南ふれあい学園の教育指針・・・・・・・・	6
III	学校法人中長期計画・・・・・・・・・・・・・・・・	7
IV	2025年度事業計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	8
V	財政計画・・・・・・・・・・・・・・・・	2 3
VI	施設・設備計画・・・・・・・・・・・・・・・・	2 5
VII	生涯学習事業　・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6
VIII	収益事業・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6
IX	監査計画・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6

I 学校法人の概要：

学校法人湘南ふれあい学園は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念とし、高度な専門知識と技術を修得する意欲を主体的に持ち、人と協働しながら、社会に奉仕でき、次世代のリーダーとなる保健医療人・社会人を育成することを目的とし、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校、医療ビジネス観光福祉専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園を運営しています。本学園の各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当し、そして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、全体研修活動の推進（授業内容職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び6 S 活動の実践
業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化

法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部・学科・専攻等			開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科		2015年
		リハビリテーション学科	理学療法学専攻	
			作業療法学専攻	
	薬学部	医療薬学科		2021年
	大学院 保健医療学 研究科	保健医療学専攻	修士課程	2019年
			博士後期課程	2024年
	専攻科	公衆衛生看護学専攻		2022年
		助産学専攻		
別科	介護福祉別科		2025年	
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）			1949年 ※2017 年より 幼保連携型認定 こども園
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科			1994年
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科			1998年
	作業療法学科			
	言語聴覚学科			
	社会福祉専攻科（付帯教育事業）			

湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科	2004年
医療ビジネス観光福祉 専門学校	学科	2014年
	介護福祉学科	2019年
	介護福祉士実務者研修（附帯教育事業）	

2 学生・園児数・学校別

[湘南医療大学]（学部・学科等、入学定員、収容定員、入学者、在籍者、2024年度卒業生数）

学部・学科・専攻等			入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2025.4.1					2024年度
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	卒業生数
保 健 医 療 学 部	看護学科		140	560	160	164	147	135	130		74
	リハビリテーション 学科	理学療法学 専攻	40	160	49	49	44	41	40		44
		作業療法学 専攻	40	160	41	41	38	40	35		31
薬学部 医療薬学科			130	650*	49	54	61	69	54	27	
大学院		修士課程	12	24	12	13	8				5
保健医療学研究科		博士後期課程	3	6**	3	3	6				
合計			365	1,560	314	324	304	285	259	27	154

専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	20	20	20						20
	助産学専攻	15	15	15	15						14
合計		35	35	35	35						34
別科	介護福祉別科***	40	40	28	28						

***2025 年 4 月設置

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定区分	入学定員	収容定員	在園者数2025.4.1					2024年度 卒園生数
			1 歳児	2 歳児	年少 (3 歳児)	年中 (4 歳児)	年長 (5 歳児)	
1～3 号認定	—	218	10	10	45	55	65	59

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2025.4.1			2024 年度
				1 年	2 年	3 年	卒業生数
看護学科	80	240	46	49	59	71	65

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2025.4.1				2024年度
				1 年	2 年	3 年	4 年	卒業生数 (修了)
理学療法学科	70	280	49	50	52	60	62	50
作業療法学科	30	120			10	18	12	13
言語聴覚学科	35	70	30	30	24			24
合計	135	470	79	80	86	78	74	87

(付帯教育事業)

社会福祉専攻科	80	160	48	48	45			47
---------	----	-----	----	----	----	--	--	----

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2025.4.1			2024年度
				1 年	2 年	3 年	卒業生数
看護学科	30	110*	7	7	16	22	33

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2025.4.1		2024年度 卒業生数
				1 年	2 年	
医療ビジネス学科	40	80	41	41	17	13
観光学科						16
介護福祉学科	60	120	58	58	51	18
合計	100	200	99	99	68	

(付帯教育事業)

介護福祉士実務者研修	30	30×3	—	—			15
------------	----	------	---	---	--	--	----

3 人事計画及び組織

(1) 人事計画

各校（園）の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が理念の実現に向けて教育研究活動の維持向上に努め、社会の要請に応え一層の強化を図ることができる組織を編成するため、各部署の適正人員数の配置を進める。

(2) 職員配置

2025年度の各学校別の専任教職員数（常勤換算数）は以下のとおりとする。尚、大学は、教授、准教授、専任講師、助教、助手の内訳を記載する。

	2025年度現員（2025.4.1）		計
	教員	職員	
湘南医療大学	123	53	176
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	33	6	39
茅ヶ崎看護専門学校	19	6	25
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	7	29
湘南医療大学附属下田看護専門学校	10	5	15
医療ビジネス観光福祉専門学校	14	4	18
法人本部	0	4	4
計	221	85	306

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健医療学部	看護学科	5	12	0	7	3	5	3	5	0	1	11	30
	兼担	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	リハビリテーション学科	7	0	1	1	4	0	0	0	0	0	12	1
		3	0	3	0	1	2	1	1	0	0	8	3
薬学部	医療薬学科	18	3	4	4	8	1	2	1	0	0	32	9
計		33	16	8	13	16	8	6	8	0	1	63	46

大学院保健医療学研究科（修・博）	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	5
兼担	17	10	2	7	1	2	0	1	0	0	0	20	20
計	18	12	2	9	1	2	0	2	0	0	0	21	25

専攻科	0	0	0	3	0	1	0	2	0	1	0	7	7
兼担	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	0	2	0	3	0	1	0	2	0	1	0	7	9

学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		専任教員		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
別科	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2

Ⅱ 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針：

1 教育力を高める活動

I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD/SD 活動を実践しています。教職員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践します。

Ⅱ 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫します。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導します。

2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践します。

I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

Ⅱ 専門職としての高度な知識・技能

- ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)

- ・新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力、判断力、表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)

- ・学修指導、学生指導、学部学科経営等を的確に実践できる力

Ⅲ 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、チーム力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学修・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学修指導内容を策定します。

3 学生の人間性を高める活動

1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育します。

2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげます。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指します。

また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキャロリングは、新型コロナウイルス感染拡大防止により、病院施設に出向く方式から、患者様利用者様にメッセージやクリスマス飾りをお送りする方式に変更しましたが、自宅と異なる環境で年末年始を過ごす方の気持ちを考え、それらの方たちにお送りするメッセージを考えることで、医療人を目指す学生としての人間形成に大いに役立っています。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続していきます。

3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学びます。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、医療従事者を目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、学修や学生生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献します。

Ⅲ 湘南ふれあい学園中長期計画：

湘南ふれあい学園は、2019年度を初年度とする中長期事業計画を掲げ、2025年度は、2023年度から始まる5年間の第2期事業期間とし、更に地域社会に必要とされ貢献できる学園運営を推進していきます。

第2期事業計画（2023年度～2027年度）

中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、「学修者本位の教育力」を結集し、学園設置校としての「総合力」を育む

1. 教育ビジョン

(1) 高い倫理観と高度な知識技術を修得した人材を育成するため、学園の理念に基づいた教育プログラムを充実させる。

(2) 医学・医療的機能のみならず、全人的に理解する教育を実践する。

- (3) 地球規模の視野で考え、地域視点で行動できる生涯教育システムを確立する。
 - (4) 高度な専門性を有する教育者と研究者を育成する。(大学・大学院)
 - (5) 多職種協働・連携を支えるチーム医療教育を推進する。
 - (6) 社会的・職業的自立に必要な能力を養うための「教育の内部質保証」を推進する。
2. 研究ビジョン (大学・大学院)
- (1) 高い倫理観に基づく研究活動を推進する。
 - (2) 特色ある研究を行うために看護・医療・薬学分野横断的な基盤をふれあいグループの病院と確立する。
 - (3) 地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる研究活動を推進する。
 - (4) 研究ネットワークを多様化させて、成果を広く社会に発信する。
 - (5) 研究活動を通して、競争力を持ち、豊かな人間性を有する人材を育成する。
3. 地域連携・社会貢献ビジョン
- (1) 地域社会に開かれた教育機関として、各校の英知を地域社会に還元する。
 - (2) 地域社会と連携し、本質的ニーズを見極めて、より良い未来の創造に寄与する。
 - (3) 人々が安心して暮らせる豊かな地域社会(コミュニティ)の形成に貢献する。
4. 管理運営ビジョン
- (1) 学園全体が一体となるガバナンスに基づく、公正な判断とバランスある運営を行う。
 - (2) コンプライアンス(法令順守)を推進する。
 - (3) 教育・研究の質的水準を維持する管理運営組織を確立する。
 - (4) 教職員の一体感、意欲の向上、並びに個々の成長を促進する組織を目指す。
 - (5) 入学定員を確保できる効果的な入試改革・募集広報活動を実践する。
 - (6) 中長期的財政基盤を確立する。

(参考) 第3期事業計画期間：2028年度～2032年度
 学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

IV 2025年度事業計画の概要：

(1) 中長期計画ビジョンを達成するための2025年度の目標(湘南医療大学・大学院)

○組織、運営に関する目標

1) 学部等の新設

- ・大学院修士課程での「医療・マネジメント エグゼクティブ領域」の設置
 - ・保健医療学部、薬学部の入学定員変更(2026年4月)に向けて申請準備
 - ・リハビリテーション学科は、教職課程設置の準備を行い、特色ある教育課程を編成する。
- また、生涯教育として、認定及び専門理学療法士・作業療法士の養成推進やスキルアップ講習の開催も検討する。

2) 教職員の充実

- ・経験を有する非常勤職員の計画的補強と定着率の向上
- ・教職員の欠員補充

- ・学園設置校間における教職員の異動・出向の促進
- ・教員の年齢別、専門分野別の適正配置に関する計画
- ・若手教員の育成

3) 業務の効率化

- ・研究科、学部、学科（専攻）、事務部並びに3キャンパス（保健医療学部・薬学部・横浜山手校舎・藤沢校舎）の業務処理方法の効率化と各種手続きの簡素化

4) 補助金の獲得

- ・経常経費補助金の獲得増と私立大学等改革総合支援事業の採択（IRの強化）

○教育、研究の活性化に関する目標

1) 教育内容の改善

- ・国家資格合格率100%を達成するための教育及び学修支援
- ・CBT（実務実習前評価試験）、OSCE（薬学共用試験）に合格に向けた教育強化
- ・薬学部学生の能力や理解進度に合わせた授業/補講（Sプログラム）の継続
- ・医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）
- ・初年次教育指導の再検討（道徳心、勉学の心構え、大学生活等）
- ・教育内容の平準化に向けた検討（教育力、試験内容他）

2) 教育方法の改善

- ・「何を教えた」から「何を学び、何を身につけたか」に転換した大学教育は、DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、教学マネジメントを毎年度見直す。
- ・ポートフォリオ（教育業績記録）に加えて、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）を導入する。（課程履修の状況、卒論、GPA推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）
- ・授業デザイン計画にもとづく「学生を惹きつける授業」の研修
- ・アクティブラーニング形式（能動的雙方向授業）の積極的な導入
- ・学生・院生が理解できる「シラバス」活用の見直し
- ・授業評価（アンケート）に基づく授業改善、教育活動改善への活用
- ・大学院生教育の一環としてティーチングアシスタント（TA）制度を導入する。

3) 研究の活性化

- ・外部研究資金導入の促進（全員申請、毎年20%以上の採択率の獲得）
- ・科学研究費、各種外部研究奨学費、受託研究等の奨励、推進のための支援の充実
- ・研究不正防止計画の遵守（研究倫理eラーニングシステム受講の徹底 受講率100%）
- ・大学・グループ病院間の共同研究の促進
- ・大学ブランディング研究の継続（がん看護、フレイル、認知症研究など）

○新規施設等の整備に関する目標

1) 茅ヶ崎キャンパス整備

2026年4月保健医療学部入学定員変更計画：看護学科校舎は茅ヶ崎中央病院隣接地

に賃貸で整備。

○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

1) 教育・研究用機器の重点整備

- ・保健医療学部、薬学部の入学生定員変更設置に伴う、看護、リハビリテーション教育用設備の整備

- ・薬学部の実験実習等に関わる機械器具の配備

○点検評価及び情報公開に関する目標

1) 授業評価に関する目標

- ・学生授業評価アンケート項目の見直し

2) 研究業績の評価に関する目標

- ・学内外への研究者の研究活動を積極的に公表する。

3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標

- ・薬学教育認証評価（プレ評価）の受審

- ・看護教育認証評価の受審準備について情報の共有と審査項目の調査等準備を開始する。

- ・日本高等教育評価機構の評価項目に準拠する自己点検評価の実施と IR データの集積

4) 学生募集の評価に関する目標

- ・入学時アンケート項目の変更

5) キャリ開発・就職の評価に関する目標

- ・卒業後アンケート調査の徹底

6) 情報公開に関する目標

- ・教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開の促進

- ・ホームページでの公開情報の拡充と継続

○地域連携及び社会貢献に関する目標

1) 連携の強化

- ・本学の実習受け入れ施設等との連携強化（継続）

- ・実習施設が抱える実際問題について共同研究を促進する。（継続）

2) 地域貢献

- ・地域が開催するイベント等への積極的な参加

- ・医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築

- ・公衆衛生、健康増進・予防、心身機能障害、周産期母子医療に関する地域支援

- ・病院施設に対するクリスマスキャロリングの開催

○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

1) 入試制度の改善

- ・保健医療学部、薬学部入試制度の見直し（受けたいと思える大学・法令遵守の中での入試）

- ・特待生制度の見直し

- ・アドミッションポリシーの再確認

医療人としての適性を有する人材の早期確保のための入試制度の再検討、総合型選抜、推薦型選抜（公募型・指定校型）のAPの再確認及び入試体系の見直し

2) 学生募集・広報体制の改善

- ・広報システムの再検討（大学の独自色を強化する）
- ・ホームページ、SNSの活用（受験生、保護者、高校教員のニーズへの対応）
- ・募集広報地域の範囲拡大、対象、方法等の見直しとデジタル化
- ・学費改定（薬学部）
- ・学生募集・広報活動に関し、ふれあいグループ医療施設との活動と連携して強化する。（講演会、医療施設見学、医療従事者と協働するOC）
- ・高大連携事業の強化（連携協定を促し、出張講義、サマースクール、研究室訪問などの企画を実施）

○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

1) 学生生活、修学支援（継続）

- ・ふれあいグループ奨学金制度の推奨
- ・休退学者減少への取り組み
- ・学生食堂等、課外活動施設の改善
- ・チューター制度の充実
- ・学生の「心の相談」への対応窓口・カウンセラーの体制
- ・大学祭支援、オープンキャンパスの機会としての活用
- ・学生の保護者との情報交換、大学理解のための保護者会を定期的で開催する。
- ・後援会設置のための準備

2) 就職・キャリア支援（継続）

- ・グループ就職説明会、先輩の体験・アドバイスの活用
- ・就職先施設との情報交換会、学内情報の提供
- ・連携同窓会の諸活動との連携の強化

○その他の目標

1) 安全管理・危機管理体制の整備（新規取組）

- ・盗難、火災、自然災害に対する予防と安全確保に関し、マニュアルの更新、万全の対策、安否確認システムの導入、防災備蓄等、必要な整備を行う。
- ・年2回の避難訓練の開催
- ・オープンラボ、実習室、動物実験、薬物管理等の安全管理マニュアル整備、安全教育
- ・学内コンピュータシステムのセキュリティの確保体制の強化

（２）中長期計画ビジョンを達成するための２０２５年度の目標（専門学校及び認定こども園）

１）茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

- ・在学生の国家試験１００％合格に向けた対策
- ・在学生の休退学率の減少対策（補講、学生相談等）

２）湘南医療大学附属下田看護専門学校

- ・存続するために大学並びにグループ病院施設と連携した運営
- ・入学定員確保のための施策（学費、学生寮費の見直し）
- ・教育職員の確保対策

３）医療ビジネス観光福祉専門学校

- ・介護福祉学科の学生確保及び教育内容の充実
- ・医療ビジネス学科と観光学科との再編（医療事務・IT専攻・）の教育内容の見直し
- ・留学生への対応（日本語補講教育・グループ病院施設でのアルバイト斡旋、学費減免補助）

４）幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

- ・園舎の老朽箇所の修繕（継続）
- ・教育職員の確保対策

（３）湘南医療大学及び学園が設置する４専門学校の２０２５年度の重点目標項目

～重点目標項目、教育の展開、具体的な取り組みの指標、事業計画概要～ 別添資料参照

2025年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 1.全学的な教学マネジメント体制構築及びアセスメントプランの策定 ※教学マネジメントとは、大学が教育目的を達成するために行う管理運営のこと。 3つのポリシーに基づく、体系的・組織的な教育展開を行っているのか、その成果の点検・評価を行い、学修の質の向上に取り組む必要がある。	学長を中心とした、全学的な教学マネジメントの体制において、教職員の業務内容の整理・点検し、以下の取組を行う。 A IR情報を活用し、教育課程の適切性検証と教育改善を行うサイクルを運用する。 B 大学全体レベル、学位プログラムレベルで大学教育の成果をアセスメントプランに則り点検・評価を実施する。 ・学部を超えた教学マネジメント体制の構築（学長・保健医療学部長・薬学部長・学科長・各学科カリキュラム編成担当教員他） ・会議体の設定（教務委員会・自己点検委員会） ・会議体の組織規程作成 ・カリキュラムの点検・評価スケジュール ・アセスメントプランの策定（大学全体・学部ごと）	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 2.学修成果等の可視化	ディプロマサプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。 ・様式案の作成 ・外部のアセスメントテストの導入検討（ex.PROGテスト、GPSアカデミック等）	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 3.IR情報を活用した教学改善の検討（教務の改善）	学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、情報の提供を行うための専門職を配置するとともに、教学IRをきっかけとする教学改善の事例を情報公開する。 ・IR部門にて、IR情報を用いて、教学改善を検討し、実施する。 ・授業評価アンケートにより学生満足度向上に対する取り組み ・GPAの低い科目に対する取り組み（成績不良者との関連含む） ・卒業時アンケートによる学生満足度に対する取り組み ・前年度評価の低い科目・項目の改善度チェック ・次年度にむけ、評価の低い科目・項目の改善点抽出、反映 ・評価の高い科目の内容紹介	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 4.高等学校教育と大学教育の連携強化	高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて、以下の取組を実施する。 ア 大学等における学修を高校生が経験する取組（合同授業の実施等）の実施 イ 高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ウ 高等学校と大学等との合同研修の実施 エ 高等学校と連携した入学前教育の実施	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 5.入学者選抜の妥当性及び効果的な選抜方法の検証（入試の改善）	入学者選抜の妥当性を高めるため、入学後の学修状況等を調査したうえで、入学者選抜の妥当性について、高等学校関係者等外部有識者の知見を活用しつつ検証する。 ・各入試区分で入学した学生の入学後の成績・留年・休退学状況・国試結果・卒業状況について、分析する。 ・分析後、連携校・重点校から、本学の入試制度の状況について、意見をいただく。	
②授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用 +A10:C13	「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなりフレクシオンペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、結果を教務委員会で審議する。 また、卒業時や卒業後のアンケート調査の実施後、学生の成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる方策を講じる。	授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [看護] 4.40以上、[理学] 4.60以上、[作業] 4.60以上 ※【参考】2023年度 [看護] 4.38、[理学] 4.56、[作業] 4.56

2025年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標																																												
③学修支援・国家試験対策支援	・学修支援の充実 新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。 ・国家試験対策 小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、低学年から計画的な国家試験受験対策を実施する。国家試験対策に必要な事業の企画・実施、カウンセリング及び情報収集・提供等を行い、国家試験合格率の向上を図る。	【目標数値】 ・国家試験合格率：看護師、保健師、助産師、理学療法士及び作業療法士 100% ・定期試験追再試験受験者数の減少：80%以上の定期試験合格率 ・授業科目の合格者数の平準率80%以上 ・（保健医療学部）国試対策模試等実施回数：〔看護〕14回、〔理学〕17回、〔作業〕17回																																												
④各学部の定員確保	2022年度、2023年度、2024年度入学者及び2025年度出願者データより入学実績校、出願実績校（以下、「重点校」と言う。）に対して重点的に学生募集活動を行い、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統とする。 1、重点校との連携強化 ・指定校推薦枠の保証・拡大する。 ・出張講義、医療系セミナー等の実施する。 ・オープンキャンパスへのバス送迎を案内する。 2、オープンキャンパスの充実と入試制度改革 ・オープンキャンパスにおける模擬授業や実習体験参加実績を総合型選抜に活用する。 ・低学年層や保護者をターゲットにしたイベントを開催する。 3、ホームページやSNSなどによる広報の充実 4、本学のブランド力の向上 ・本学にしかできない医療系複数学科の連携（チーム医療）を体験・実感できる環境 ・臨床実習をサポートするグループ病院の存在 ・入学前教育、チューター制による手厚い学修支援	【保健医療学部 246名定員確保】 ①重点校より1人以上の出願者確保 ・看護学科 115人〔2024年実績：107人〕 ・リハビリテーション学科 - 理学療法専攻 73人〔2024年実績：60人〕 - 作業療法専攻 49人〔2024年実績：29人〕 ②大学全体資料請求者数：12,683件 （前年度並み：進学サイト削減（12⇒2社）） ③オープンキャンパス参加者数：1362人 （2024年度実績：1,238件、+10%） ※オープンキャンパス来場者の出願率向上 前年度39.6%→42.6%（3%up） ④出願者数：600人（2024年度見込比：+3%） （2023年度：545名）																																												
⑤休退学者減少への取組	・本学の休退学者減少への取組 ・学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。 ・学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。 ・学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。 ・ハラスメント対策として、学生が相談しやすい環境提供のため、ハラスメント相談員を教員のみならず、事務からも選任する。 ・学生の進路・キャリア教育に関する情報を早い段階で提供し、相談体制を充実させる。	・中退率：休・退学者率1.0%以下 【参考】 <table><tr><th>単位：%</th><th>FY21</th><th>FY22</th><th>FY23</th><th>av.21-23</th><th>FY24</th></tr><tr><td rowspan="3">退学率</td><td>看護学科</td><td>3.0</td><td>1.6</td><td>1.1</td><td>1.8</td><td>0.2</td></tr><tr><td>理学療法</td><td>3.5</td><td>1.2</td><td>1.8</td><td>2.2</td><td>0.0</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>1.2</td><td>7.7</td><td>4.8</td><td>4.5</td><td>0.0</td></tr><tr><td rowspan="3">休学率</td><td>看護学科</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>0.9</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td>理学療法</td><td>2.3</td><td>1.8</td><td>2.4</td><td>2.2</td><td>1.2</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>3.1</td><td>7.1</td><td>5.4</td><td>5.2</td><td>2.6</td></tr></table>	単位：%	FY21	FY22	FY23	av.21-23	FY24	退学率	看護学科	3.0	1.6	1.1	1.8	0.2	理学療法	3.5	1.2	1.8	2.2	0.0	作業療法	1.2	7.7	4.8	4.5	0.0	休学率	看護学科	1.8	1.8	0.9	1.5	1.0	理学療法	2.3	1.8	2.4	2.2	1.2	作業療法	3.1	7.1	5.4	5.2	2.6
単位：%	FY21	FY22	FY23	av.21-23	FY24																																									
退学率	看護学科	3.0	1.6	1.1	1.8	0.2																																								
	理学療法	3.5	1.2	1.8	2.2	0.0																																								
	作業療法	1.2	7.7	4.8	4.5	0.0																																								
休学率	看護学科	1.8	1.8	0.9	1.5	1.0																																								
	理学療法	2.3	1.8	2.4	2.2	1.2																																								
	作業療法	3.1	7.1	5.4	5.2	2.6																																								

2025年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑥FD・SD研修の充実	・FD、SD研修の充実 ・本学理念及び今年度方針を実現すべく、FD・SD活動を通し教職員の質の向上を行う。 ①全体研修会（大学部会） ア．全員参加の5つの活動（PDC、業務改善、全体研修会、朝礼、6S）を推進。 イ．教員授業の改善 授業評価アンケート、リフレクションペーパー、授業観察とフィードバック等を活用し、授業の質を高める、 ウ．休退学者の減少。 休退学要因を分析結果に則した対応策を構築し、チューター教員への指導を徹底する。 エ．学生募集 オープンキャンパスを充実させると共に、重点校へきめ細かくアプローチすることにより連携を強化し出願者拡大につなげる。 ②医療・教育研究科会 医療教育に関する研究を促進し、その研究成果の発表することで、教育の質の向上に繋げる。 ③学科研修「自律的な学生を育てる取り組み」 教育の質の向上を図るべく、次の手法を活用して学生が主体的且つ能動的に学ぶ環境を構築する。 「自ら課題を見つけ、学び・考え、主体的に判断・行動し問題を解決出来る資質・能力」を育む授業実施 ・ディベート：意見交換を通じた論理的思考力の鍛錬 ・ピア・インストラクション：学生同士の学び合い促進 ・復習テスト：学習内容の定着。 ・ケースメソッド：実事例を基に課題解決力を養成。 ・PBL（課題基盤型学習）：問題解決を目的としたプロジェクト学習 ・反転授業：授業前に学習し授業中に深掘りや応用	【数値目標】 ①全体研修会（大学部会）：年間：5回 ②医療教育研究会：年間：2回 ③各学科・専攻FD研修会 看護学科：年回：11回 リハビリテーション学科：年回：9回 （理学4回、作業4回、合同1回） *各研修会の教職員参加率：100%
⑦3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組	・自己点検・評価 2024年度の各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。 ・各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価 データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。	
⑧学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し	・アセスメントポリシーの点検・評価 直接評価：授業の課題や試験、ポートフォリオ、卒業論文、資格取得など 間接評価：授業内容や試験内容、学習時間、学生満足度など 本学の学習成果の測定内容を検討し、保健医療学部のアセスメントポリシーに合致した取組が行えているか、評価していく。	

2025年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑨キャリア支援と地域社会 への貢献	・地域及びグループ病院施設への就職者数増に関する取り組み キャリア形成に必要な事業の企画、及び必要な情報の収集を 行う。さらに、就職に関する情報収集や指導をグループと 連携して、「グループ就職希望者の増加対策 ローラーアップ 作戦（案）」を実施する。 ・グループ病院施設との連携による地域貢献 (入試制度・奨学金・共同研究) グループ推薦入試制度を看護学科に加えて、リハビリテーション学科 でも実施する。 ・授業料減免対象者に対し、学費を猶予することも検討する。 グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、 その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。	・就職者数・率：就職希望者の就職率100% ・グループへの就職率：[看護] 50%、 [理学・作業] 50% ・地域貢献事業：3事業 (前年/24年度：3事業(戸塚区2、神奈川県生涯 学習センター1)) ・中学校キャリア教育(職業体験等)：2回 (横浜市子どもアドベンチャーカレッジ、 オープンキャンパス(前年度未実施)) ・地域連携活動(公開講座)／前年は出張講義 2025年実施回数 5回8講座 86名(前回比：+10%) 2023年実施回数 5回9講座 78名(前回)
⑩研究力向上に係る学内計画 の策定	・大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや 特色を特定し、それを伸長させる研究計画の策定 大学等の個性・特色が発揮でき、将来性のある医学、看護、 リハビリ、薬学等の学融合的分野の研究や調査を推進し、 戦略的な研究分野を確立する。 ・科研費採択 科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を 前年度比15%増加させる。 ・専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加 専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。	・科研費(申請)専任教員の全員(私学平均約1/3) ・科研費(採択率)新規採択率20%以上 (2023年度17% [8/47件]) ・査読付き論文数 教員1人あたり2件(含共著)

2025年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 1.全学的な教学マネジメント体制構築及びアセスメントプランの策定 ※教学マネジメントとは、大学が教育目的を達成するために行う管理運営のこと。 3つのポリシーに基づく、体系的・組織的な教育展開を行っているのか、その成果の点検・評価を行い、学修の質の向上に取り組む必要がある。	学長を中心とした、全学的な教学マネジメントの体制において、教職員の業務内容の整理・点検し、以下の取組を行う。 A IR情報を活用し、教育課程の適切性検証と教育改善を行うサイクルを運用する。 B 大学全体レベル、学位プログラムレベルで大学教育の成果をアセスメントプランに則り点検・評価を実施する。 ・学部を超えた教学マネジメント体制の構築（学長・保健医療学部長・薬学部長・学科長・各学科カリキュラム編成担当教員 他） ・会議体の設定（教務委員会・自己点検委員会） ・会議体の組織規程作成 ・カリキュラムの点検・評価スケジュール ・アセスメントプランの策定（大学全体・学部ごと）	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 2.学修成果等の可視化【継続】	ディプロマサプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。 ・様式案の作成 ・外部のアセスメントテストの導入検討（ex.PROGテスト、GPSアカデミック等）	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 3.IR情報を活用した教学改善の検討【継続】（教務の改善）	学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、情報の提供を行うための専門職を配置するとともに、教学IRをきっかけとする教学改善の事例を情報公開する。 ・IR部門にて、IR情報を用いて、教学改善を検討し、実施する。 ・授業評価アンケートにより学生満足度向上に対する取り組み ・GPAの低い科目に対する取り組み（成績不良者との関連含む） ・前年度評価の低い科目・項目の改善度チェック ・次年度にむけ、評価の低い科目・項目の改善点抽出、反映 ・評価の高い科目の内容紹介	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 4.高等学校教育と大学教育の連携強化【継続】	高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて、以下の取組を実施する。 ア 大学等における学修を高校生が経験する取組（合同授業の実施等）の実施 イ 高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ウ 高等学校と大学等との合同研修の実施 エ 高等学校と連携した入学前教育の実施	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 5.入学者選抜の妥当性及び効果的な選抜方法の検証（入試の改善）	入学者選抜の妥当性を高めるため、入学後の学修状況等を調査したうえで、入学者選抜の妥当性について、高等学校関係者等外部有識者の知見を活用しつつ検証する。 ・各入試区分で入学した学生の入学後の成績・留年・休退学状況・国試結果・卒業状況について、分析する。 ・分析後、連携校・重点校から、本学の入試制度の状況について、意見をいただく。	
②授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用【継続】	「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、結果を教務委員会で審議する。	授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [薬学] 86%以上 ※【参考】2023年度 [薬学] 85.9%

2025年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標																																																		
③学修支援・CBT/OSCE対策支援 【継続】	・学修支援の充実 新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。 ・CBT/OSCE対策支援 CBTに関しては、3年次から継続的なCBT演習を実施し、単位取得科目の習熟度を維持・向上させ、確固たる知識基盤を構築する。さらに、学内外の模擬試験を定期的実施することで、学生に本試験の雰囲気を感じさせ、本番での実力発揮を促す。さらに、模擬試験の結果を詳細に分析し、個々の学生の弱点克服と、カリキュラム全体の改善に役立てる。OSCE対策に関しては、低学年からの臨床系実習科目を活用し、合格に必要な技能・態度を段階的に習得させる。3年次後期から始まる事前実務実習Ⅰ、4年次からの事前実務Ⅱ・Ⅲを通して徹底した知識・技能・態度教育を行う。4年後期には、CBT/OSCEに特化した集中的な対策を実施し、合格に必要な要件を総点検する。なお、学生一人ひとりの状況を把握するため、チューター面談を随時実施し、特に成績低迷者には個別指導を行い、学修方法の改善やモチベーション向上を支援する。	・学修支援 →定期試験追再試験受験者数の減少： 80%以上の定期試験合格率 →授業科目の合格者数の平均率80%以上 →入学前教育履修率100% ・CBT/OSCE対策支援 →体験CBTでの得点率：50%以上 →CBT外部模擬試験での得点率：全国平均以上 →OSCE：全員合格（2024年度に引き続き100%を維持）																																																		
④各学部の定員確保【継続】	2022年度、2023年度、2024年度入学者及び2025年度出願者データより入学実績校、出願実績校（以下、「重点校」と言う。）に対して重点的に学生募集活動を行い、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統とする。 1、重点校との連携強化 ・指定校推薦枠の保証・拡大する。 ・出張講義、医療系セミナー等の実施する。 ・オープンキャンパスへのバス送迎を案内する。 2、オープンキャンパスの充実と入試制度改革 ・オープンキャンパスにおける模擬授業や実習体験参加実績を総合型選抜に活用する。 ・低学年層や保護者をターゲットにしたイベントを開催する。 3、ホームページやSNSなどによる広報の充実 4、本学のブランド力の向上 ・本学にしかできない医療系複数学科の連携（チーム医療）を体験・実感できる環境 ・臨床実習をサポートするグループ病院の存在 ・入学前教育、Sプログラムによる手厚い学修支援	【薬学部 106名定員確保】 ①重点校75校より、1名の出願者確保（31人）前年入学実績 ②大学全体資料請求者数：12,996件（前年度から増減0） ※進学サイト削減のため ③オープンキャンパス参加者数：334人（+20%）（前年度304件） ※オープンキャンパスから出願への歩止率：前年度36.7%→41.7%（+5%） ④出願者数：オープンキャンパスからの出願152件（歩止率43%目標）+オープンキャンパス参加なし96件（見込み値）＝248件 → <u>定員 106名 達成</u> <table><tr><th></th><th colspan="4">医療薬学科 ※41.7%歩留</th></tr><tr><th></th><th>2024 出願実績</th><th>2025 出願実績</th><th>2026 出願目標値</th><th>2026 入学見込</th></tr><tr><td>総合型選抜</td><td>9</td><td>3</td><td>15</td><td>6</td></tr><tr><td>学校一般</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>5</td></tr><tr><td>推薦 指定校</td><td>14</td><td>12</td><td>25</td><td>10</td></tr><tr><td>型 ふれあい特別</td><td></td><td>9</td><td>9</td><td>4</td></tr><tr><td>一般</td><td>72</td><td>53</td><td>118</td><td>49</td></tr><tr><td>共通テスト</td><td>42</td><td>35</td><td>85</td><td>35</td></tr><tr><td>留学生</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>出願者計</td><td>149</td><td>125</td><td>265</td><td>26</td></tr></table>		医療薬学科 ※41.7%歩留					2024 出願実績	2025 出願実績	2026 出願目標値	2026 入学見込	総合型選抜	9	3	15	6	学校一般	12	13	13	5	推薦 指定校	14	12	25	10	型 ふれあい特別		9	9	4	一般	72	53	118	49	共通テスト	42	35	85	35	留学生				0	出願者計	149	125	265	26
	医療薬学科 ※41.7%歩留																																																			
	2024 出願実績	2025 出願実績	2026 出願目標値	2026 入学見込																																																
総合型選抜	9	3	15	6																																																
学校一般	12	13	13	5																																																
推薦 指定校	14	12	25	10																																																
型 ふれあい特別		9	9	4																																																
一般	72	53	118	49																																																
共通テスト	42	35	85	35																																																
留学生				0																																																
出願者計	149	125	265	26																																																

2025年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑤休退学者減少への取組【継続】	・ 本学の休退学者減少への取組 ・ 学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。 ・ 学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。 ・ 学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。 ・ ハラスメント対策として、学生が相談しやすい環境提供のため、ハラスメント相談員を教員のみならず、事務からも選任する。 ・ 学生の進路相談などのキャリア教育や情報を提供する。	・ 中退率：（薬学部）休・退学率1.0%以下 ※【参考】 2024年度（前期）休学1.8%、退学0% 2023年度休学4.7%、退学3.5% 2022年度休学4.0%、退学8.9% ・ （薬学部）授業出席率80%以上、科目単位取得率90%以上
⑥FD・SD研修の充実【継続】	・ FD、SD研修の充実 全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くの FD 活動を積極的に実施する。 ・ 大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする 本学の理念を実現するために、今年度の方針、「入学定員の確保、休退学者の減少、教育の質の向上、FD/SD活動、医療・教育研究科会での研究成果の発表、グループ5つの活動」等、全体研修会に全教職員が参加して職員の資質・機能の向上及び改善を図る。 ・ 休退学を減らし、自律的な学生を育てるための取り組み 学生の休退学減少と自主的学習を推進する。休退学の原因の主となるメンタル関連の情報を早期に発見し、その後の有効な支援につなげる。また、学修を自主的に展開させるために有効な方法として、グループ学習などの研修を実施し、実践する。	・ 全体研修会（大学部会）・医療教育研究会開催回数：7回 ・ 学科FD研修会回数：2回 ・ 各研修会の教職員参加率：100%
⑦3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組【継続】	・ 自己点検・評価 各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書（案）を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。 ・ 各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価 データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。 ・ 2025年度は、薬学部プレ認証評価受審年度	
⑧学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し【継続】	・ 学修成果の測定：（アセスメントポリシーの策定） 直接評価：授業の課題や試験、ポートフォリオ、卒業論文、資格取得など 間接評価：授業内容や試験内容、学習時間、学生満足度など 本学の学習成果の測定内容を検討し、ポリシーとして定め、3つのポリシーと併せ、評価していく。	

2025年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要案

2025年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標
⑨キャリア支援と地域社会への貢献 【継続】	・1～5年生の年次ごとにキャリア支援ガイダンスを開催する。 ・インターンシップ実習（4、5生対象）を実施し、就職に関する意識を養成する。 ・ふれあいグループ内就職を促す一環として、グループ内病院・薬局との連携を図る。 ・ふれあいグループ人事部主催のキャリアガイダンスの実施を検討する。 ・グループ病院施設及び地元薬剤師会との連携による地域貢献（入試制度・奨学金・共同研究）グループ推薦入試制度を薬学部でも実施する。 ・授業料減免対象者に対し、学費を猶予することも検討する。 グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。また地元薬剤師会との連携も検討する。	・キャリアガイダンス開催回数 1年次: 早期体験実習内で実施 2年次: 前期 1コマ、後期 1コマ 3年次: 前期 1コマ、後期 1コマ 4、5年次: インターンシップ実習 ・地域貢献事業：3事業（前年度3事業(24年度戸塚区2、神奈川県生涯学習センター1) ・中学校キャリア教育（職業体験等）：2回（横浜市子どもアドベンチャーカレッジ、オープンキャンパス（前年度0校）） ※地域連携活動（公開講座）を再開する場合 2023年実施回数 5回9講座 78名 2025年実施回数 5回8講座 86名 (+10%)
⑩研究力向上に係る学内計画の策定 【継続】	・大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや特色を特定し、それを伸長させる研究計画の策定 大学等の個性・特色が発揮でき、今後将来性のある医学、看護、リハビリ、薬学等の学融合的分野の研究や調査を推進し、戦略的な研究分野を確立する。 ・科研費採択 科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を前年度比15%増加させる。 ・専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加 専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。	・科研費（申請）専任教員の全員（私学平均約1/3） ・科研費（採択率）新規採択率20%以上（2023年度17% [8/47件]） ・厚生労働科研費 採択数 2件（現行2件） ・査読付き論文数 教員1人あたり2件（含共著）

2025年度 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 重点項目

番号	項目名	項目の説明
①	大学院教育の充実	大学院保健医療学研究科は、修士課程に加えて博士後期課程の設置により大学院生の受入れ体制(学士課程からの情報提供、卒業生に向けた研究活動の情報提供)、履修指導、研究指導体制を充実させて、院生の研究教育活動の遂行に資する。
②	各学部の定員確保	アドミッション・ポリシーを遵守した学生募集活動を展開し、定員確保を目指す。 ○ 受験生ニーズとの合致、競合校の特徴(強み・弱み)及び事例研究、本学の強み・特徴などを分析して、受験生が本学にアプローチする方法に対する広報の強化を図る。 ○ 本学 HP・SNS などのオンライン活動の比重を増やしてタイムリーに更新を行い、教員や講義情報を発信し、志願者の情報確認をスムーズに行う。
③	休退学者減少への取組	休退学者減少への取組は、大学の役割や社会的責任を果たすために必要なことであり、大学の魅力やブランド力を高めることにもつながる。休退学の兆候を早期に指導教員が発見し、適切な支援を行い、年間休退学率を各領域2名以下に抑える。
④	FD・SD 研修	2ヶ月に1回行う全体研修会(大学部会)、及び年2回実施する医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くの FD 活動を積極的に実施する。また、新たな社会的価値の創造のため、研究の重点化を図り、戦略的な研究分野を確立する。
⑤	認証評価への取組み	認証評価に向けて、データ及び、資料を IR に基づき蓄積して準備を遅滞なく進める。自己点検・評価は大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書(案)を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立する。また、このPDCAサイクルで実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。

2025年度 湘南ふれあい学園 専門学校 重点項目における事業計画概要

茅ヶ崎看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	湘南医療大学下田看護専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校
① 学生募集の取り組み：入学者の受け入れに関する方針（AP） 40名定員確保 入試倍率1.19倍を目標（出願者目標78名）。 ② 休退学者の防止 休学者・退学者0名を目指す。 ③ 学習支援（基礎学力の向上） 教育者として卒業時の教育目標を達成する最高の教育を実践する。 ④ 国家試験対策、資格試験合格率100% ⑤ 就職指導（ふれあいグループ教育部門としての使命） ふれあい奨学金受給者：各学年50%を目標。ふれあい奨学金受給の説明・採用・受給の対応を全力で支援する。 ふれあいグループ就職者：80%を目標。就職説明会：年3回開催。 学生を卒業目標にかなう人材に育てるためのサポートに徹し、ふれあいグループに有益な人材を供給するために全力で支援を行う。 ⑥ 授業評価を活かした授業改善、教育活動改善 授業の質をあげるために、各学科目の授業評価を終講時に学生が教員の授業評価を実施する。 ⑦ 教務と事務の円滑な連携 組織の一員としての活動力を高め、組織人としてのあり方を追求する。 ⑧ 教職員の知識・技術向上 看護学の教師としての責任と役割を果たし、専門家としての能力を高める。	① 休退学の防止 確認テストや個別指導等を徹底し、単位が取得できるまで指導する。 ② 学習支援 成績低迷者の個別指導を徹底し、学生の学習意欲を高める。 ③ 国家試験の合格率100%を目指す 苦手分野の把握を徹底し、成績下位層の学生を中心に個別指導を実施する。 ④ ふれあいグループへの就職の促進 成績及び人物評価の高い学生を確実にグループへの就職に導く。 ⑤ 授業評価をもとにした授業改善、教育活動改善 授業評価の結果と確認テストの結果から授業の改善ポイントを全教員に指示する。 ⑥ 教務と事務の円滑な連携 ICT化を進め事務処理の効率化・事務力の高めタイミング(適時性)・バランスよく効果的に再配分し協働化を速やかに推進していく。 ⑦ 教職員の知識と技術向上 教員各自が知識及び技術の向上のために研鑽する。	① 学生確保 様々な手段を活用して、一人でも多くの学生を集める。 ② 休退学の防止 休退学を未然に防ぎ、全員卒業を目指す。学生の生活態度、成績に気を配り、兆候を早期にキャッチできるように対応していく。 ③ 学習支援 再試験受験者数を低減し、確認テストの得点率をあげる。 ④ 国家試験の合格率90% 教材の十分な活用と学内模試試験・確認テストの更なる充実をめざす。 ⑤ ふれあいグループへの就職の促進 入学前から卒業までの間に、ふれあいグループへの入職が増えるような指導を充実させ、ふれあいへの就職率80%（18人）を目指す。 ⑥ 授業評価を活かした授業改善、教育活動改善 教員及び講師の学生情報の共有、指導方法の検討および共有をめざす。 ⑦ 教育と事務の円滑な連携 学生募集および就職支援を中心に取り組み、教務業務、国家試験へのサポートを実施する。 ⑧ 教職員の知識・技術の向上 全体研修会の中で、模擬授業や課題への取り組み状況や解決方法を発表し、問題行動の学生や低学力の学生に向けた対策を、学内で研究と分析を行う。	① 学生の確保 志望者および高校・日本語学校に対し、本校および学科の特長を広くWeb・SNSを中心に発信していくとともに、卒業目標にかなう高い修学意識と、グループ就職への意識を持った学生を獲得する。新学科（医療ビジネス学科と観光学科の再編成）の周知。 ② 休退学の防止 学生の個別性に合わせたフォローアップを実施する。退学率8%未満 除籍率0% 進級・卒業率90%以上を目指す。 ③ 学習支援 「わかるまで できるまで」を基本・基礎とし、小テストや補講を繰り返すことで個々の知識・能力引き上げを図る。 ④ 国家試験及び各種検定試験の合格率100%を目指す 介護福祉士学科：国家試験合格への対策として、入学当初から合格するという意識付けと過去問題や応用的な小テストなど対策を講じる。 医療ビジネス学科：医療事務コースでは、検定目標を初級（全国合格率70%前後）・中級（全国合格率50%前後）・上級（全国合格率30%前後）に分類し、それぞれ目標合格률을100%・80%・60%と設定し、すべてのレベルで達成する。ITコースでは、産業界から高く評価される資格に限定してその取得を目指す。国家試験は、1年次にIPAの定めるITスキル標準レベル1に該当する試験の合格を目指す。2年次にはITスキル標準レベル2に該当する試験の合格を目指す。 ⑤ 就職指導（ふれあいグループ教育部門としての使命） ふれあいグループの各病院・施設との関係性を深め、理念を実践できる有為な人材をグループで協働して育成しグループへの就職につなげる。就職率80%以上の実現を目指す。 ⑥ 授業評価を活かした授業改善、教育活動改善 ⑦ 教務と事務の円滑な連携 ⑧ 各教職員の知識・技術向上と学校全体の組織力強化 全体研修会や外部研修などで自己研鑽を図り、学科間の連携を深め学校全体の組織力強化を図る。

V 財政計画

予算案の概要（2025年度予算編成方針）

本学園の永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を図りつつ、教育・研究・地域貢献の一層の活性化を進めていくため、2025（令和7）年度予算編成の基本方針を次の通り定める。

1. 本学園の財政状況

令和5年度決算において、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は約3億9,081万円の支出超過であった。部門別では、湘南医療大学が4億7,226万円の支出超過、また、4専門学校及び認定こども園の計が1億2,801万円の収入超過であった。

今後、収入面では、湘南医療大学保健医療学部看護学科60名増員4年目（完成年度）、薬学部5年目の学生増による収入増で、29億87百万円の学生生徒納付金収入を計上し、前年度比2億円の増収となるものの、薬学部及び4専門学校における入学定員未充足による予定学生納付金収入の減（各校収容定員充足率100%（2,438名）対比で減）が予想される。

このような状況下において、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図る必要がある。

2. 2025（令和7）年度予算編成の基本方針

1). 財務指標

学園の事業計画の達成並びに財政基盤の安定・維持するため、経常収支差額の支出超過の減少に努めることを目標とする。

2). 基本的な考え方

(1) 収支構造の見直し

各部門において、経常収支の均衡を基本とした予算措置を行う。特に湘南医療大学薬学部、湘南医療大学附属下田看護専門学校においては、入学定員確保に向けた実効性学生納付金収入予算の設定、また、各校とも支出予算の必要性、有効性、優先度等の観点から適正化に向けた検証を行う。教育研究経費及び管理経費の消耗品及び水道光熱費の増額、円安、原材料の価格高騰による管理経費の増額を見込んでいる。

(2) 人件費

人件費については、所轄官庁の設置基準及び収支状況を踏まえた適正な人員配置、及び人事計画に基づく予算措置を行う。特に、教職員の欠員補充、収容定員変更に係る大学教職員配置等を見込む。

(3) キャンパス整備事業

湘南医療大学茅ヶ崎キャンパス（仮称）校舎整備に係る必要額の予算措置を行う。当該予算の財源確保は、自己財源及び寄附金を充当する。

3. 資金収支予算書

2025（令和 7）年度予算における収入は、学生生徒等納付金収入 29 億 8,767 万円、寄付金収入 2 億 8,000 万円、補助金収入 6 億 579 万円、付随事業・収益事業収入 1,992 万円、前受金収入 17 億 4,164 万円などの収入に前年度繰越支払資金 30 億 9,154 万円を加えた収入合計は 71 億 7,619 万 1,212 円を見込んでいる。また、支出は、人件費支出 22 億 9,066 万円、教育研究経費支出 11 億 7,254 万円、管理経費 3 億 6,181 万円、施設関係支出 3,725 万円、設備関係支出 4,210 万円など、収入合計からこれを差し引いた翌年度繰越支払資金は 29 億 2,905 万 4,112 円を予測している。

4. 事業活動収支予算書

2025（令和 7）年度予算における事業活動収入は 40 億 3,130 万 340 円円、事業活動支出は 44 億 7,585 万 3,100 円となり、基本金組入前当年度収支差額は 4 億 3,455 万 2,760 円の支出超過が見込まれている。当額から基本金組入額合計 2 億 5,319 万 8,000 円を差し引いた当年度収支差額は 6 億 8,775 万 760 円支出超過を見込んでいる。

5. 主要財務指標

(%)

比率名	算出方法	令和6年度 予算	令和7年度 予算	全国平均 (R5)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	62.4	57.4	50.9
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	80.1	75.2	69.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	46.8	41.4	36.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	13.8	10.3	8.7
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-22.1	-10.8	4.2
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	111.2	104.2	106.1
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.8	74.0	72.9
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	5.6	7.0	2.2
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	14.1	15.0	14.4
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.7	12.2	11.4
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-21.8	-10.1	4.2
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-20.6	-9.0	3.5
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-9.8	-6.3	9.7

VI 施設・設備計画

2025年度の主な施設・設備計画については下記のとおりである。各学校の教育備品の購入計画等に基づき、教育環境の充実を図る。

学校名	事項	予算額（千円）
湘南医療大学	保健医療学部：図書/データベース等、教育用管理用備品	13,200
	大学院保健医療学研究科：図書等、教育用管理用備品	1,150
	薬学部：図書/データベース等、教育用管理用備品	66,000
	専攻科：図書/データベース等、教育用管理用備品	325
	別科：図書等	800
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品、図書	5,200
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品、図書	5,000
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科他2学科：教育用管理用備品、図書	3,000
医療ビジネス観光福祉専門学校	介護福祉学科、他1学科：教育用管理用備品、図書	1,100
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	教育用管理用備品、図書	700

VII 生涯学習事業

看護系研修は、湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターにおいて、以下の通り計画されている。

- ・看護師実習指導者講習会 1回開催
- ・認定看護管理者（ファーストレベル、サードレベル）養成課程 各1回開催

その他、介護系研修を実施してきたふれあい医療福祉研修センターを、湘南医療大学藤沢キャンパスに移転する手続きを行い、介護系研修が継続できるように手続きを行う。

VIII 収益事業

不動産賃貸業の検証を行い、収益向上に努める。

IX 監査計画

学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条の業務監査及び財産の状況監査について、監事が作成する2025年度監査計画に基づき、監事監査を実施するとともに、監事、会計

監査人及び内部監査班との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

監査の対象

- ・業務監査：理事、湘南医療大学、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
- ・学校会計監査：公認会計士と連携

監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議に出席
- ・各学校（園）の業務監査を、監事が学長、学校長とヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

監査の実施時期

- ・定期監査（業務監査）内部監査終了後、2025年12月～2026年3月の間に実施
- ・内部監査（2025年8～9月頃予定）は、内部監査班が実施
- ・会計監査（2026年4～5月）は、公認会計士、内部監査班と連携して実施

監査報告書の作成

監査報告書

- | | |
|--------|----------------|
| （業務監査） | 2026年3月までに報告する |
| （会計監査） | 2026年5月 |